

テーマ：新たな価値創造が求められる時代における「地域」を学ぶために

関連の深いコース：ローカル・サステナビリティコース

1. このテーマを学ぶために

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的なマクロな視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められるようになっており、両者を統合した「グローカル」な視点を持つ議論は重要性を増しています。また、地域の再生と地域が主体となった新たな価値創生の必要性が叫ばれる今日、地域と経済の関係を多角的、複眼的かつ総合的な視点から議論することや、そのような能力を身につけた人材が様々な場面で求められています。

例えば地域経済学はこれらの課題に応えようとする研究分野で、地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当て、地域に根差した暮らしや経済のありようを追究します。具体的には日本の農山漁村、地場産業地域でのフィールドワークを通して、小規模家族経営のしくみ、そこで女性たちが果たしてきた役割、地域資源の利活用の論理などに着目しながら、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）の意義、地域の経済発展とその課題について考えることができます。

私たちの生活の基盤は地域にあります。地域づくりは、本来、空間計画（土地利用、交通、都市施設、景観など）と同時に、社会計画（人口、福祉、教育、医療、ライフスタイルなど）および経済計画（雇用、産業、財政、投資など）が一体となった総合的なものです。これらを扱うためには、地域という場所の持つ固有の文化や歴史を知り、そしてまた、今日では何よりも人間活動を環境の中に相対化して考えてみる必要があります。

地域をテーマする場合、さまざまな学問や視点を要する総合的で学際的な議論が求められます。したがって、この方面での活躍を目指そうとするには、主体的に多くのものを学習する必要があります。地域という対象においては、全ての分野が繋がっているのです、どの学問を勉強しても無駄ということはありません。自分の得意な分野や独自の視野を持つことです。経済、歴史、地理、法律などいずれにおいても深い学びと思索の経験が、将来必ず役に立ちます。同時に、常に具体的で身近な地域や事象に興味を持つことです。日常生活の衣食住、人間関係、周囲の緑、水、景観、道路、交通、社会組織など、身の回りには多くの対象があります。まずは自分の住んでいる地域や日常から具体的興味を広げていくとよいでしょう。そして国内外の地域にも、その興味を広げていきましょう。授業では、**地域経済論 I・II**で地域や産業の基本的な見方と現代的課題を、**食と農の環境学 I II III**で食と農の過去・現在・未来について具体的に考えることができます。このほか**地方自治論**、**自治体環境政策論 I II**、**環境社会論 I II III**、**地域福祉論**、**フィールド調査論**など一連の社会地域関連科目を押さえると同時に、法律・政治、経済・経営、人文科学、自然科学のうちのいずれかをしっかり学びとり、地域に焦点を当てた自分の得意分野を主体的に築いていくことを勧めます。

2. テーマに関連した推奨科目

(社会・地域関連、基幹・政策科目 ほか)			(関連分野、諸科目)		
地域経済論 I・II	食と農の環境学 I・II・III	地方自治論	自治体環境政策論 I・II	法律・政治関連の政策科目	経済・経営関連の政策科目
環境社会論 I・II・III	現代社会論 I II III	自然災害論	地域福祉論	自然科学関連の基幹・政策科目	人文科学関連の政策科目
フィールド調査論	ファシリテーション論			日本環境史論 I・II	ヨーロッパ環境史論 I・II